

令和4年2月15日亀岡市教育委員会会議録

- 1 開会 午後2時00分
閉会 午後3時50分

2 出席委員

神	先	宏	彰	教育長
江	口	昌	道	教育長職務代理者
北	村	真	也	委員
末	永	礼	子	委員
出	藏	裕	子	委員
福	嶋	百合	子	委員
陀	安	一	郎	委員

3 欠席委員

なし

4 出席事務局職員

片	山	久仁彦	教育部長
久	保	日出樹	次長兼総括指導主事
亀	井	鶴子	教育総務課長
三	宅	邦子	学校教育課長
樋	口	竜次	社会教育課長
山	崎	浩久	社会教育課人権教育担当課長
岩	崎	盛雄	歴史文化財課長
桂		和裕	学校給食センター所長
谷		仁志	図書館長
鵜	飼	均	文化資料館長
谷	口	正二	みらい教育リサーチセンター所長
阿比留		綾	教育総務課総務係長

5 傍聴者

なし

6 議事の概要

(1) 開会

○教育長が開会を宣言。

(2) 前回会議録の承認

令和4年1月18日に開催した定例会の会議録を承認した。

(3) 教育長からの報告

○教育長から以下の報告があった。

◎亀岡市関係

- ・教育委員学校訪問を新型コロナウイルス感染症対策のため、当初の予定から時間短縮で行った。育親中学校区のこども園と小・中学校、みらい教育リサーチセンターの位置関係や施設を確認した。
- ・今年度2回目の学校規模適正化育親中学校ブロック協議会を開催し、検討していくための具体案を提示した。一定の理解を得られたため、保護者や住民を対象に説明会を開催していくこととし、説明会7回のうちこれまでに2回を終えた。2月中に残りの5回も終える予定である。
- ・亀岡市スポーツ賞選考委員会が開催され各賞について選考した。ダンスやeスポーツなど新しい競技種目が出てきていることから賞の見直しについても考える時期ではないかという意見があった。
- ・京都サンガF. C. がJ1に昇格し、市全体で盛り上げていくため「わがまちサンガ応援隊」が結成され発会式・総会が開催された。
- ・光秀公のまち亀岡俳句大賞の表彰式が行われ、4, 346句の応募作品の中から南桑中学校の生徒の作品が大賞に選ばれ表彰された。
- ・校園長会議を開催し、令和4年度当初予算案の編成について子どもたちのために予算獲得を行っていく経緯などを説明した。また、今年度の総括をしっかりと行い、来年度に向けて方向性を示す時期であることを指示した。
- ・亀岡光秀まつり実行委員会が開催され、令和4年は5月3日に武者行列も行う方向で協議した。
- ・市議会定例会2月特別議会が開催され、議長の再任と副議長及び監査委員の選出が行われた。

◎国・府等の関係

- ・南丹教育委員会連絡協議会視察研修会がオンラインで開催された。南丹広域振興局長から、コロナ禍の影響について、またスポーツ界を中心に南丹地域を盛り上げていこうという講演があった。
- ・全国都市教育長協議会理事会がオンラインで行われ、来年度の山口市での総会に向けた準備などについて協議した。
- ・近畿都市教育長協議会役員会を亀岡市が主催して初めてオンラインで行った。4月に奈良県生駒市で行う総会などについて協議した。

- ・南丹教育局管内教育長会議が開催され、令和4年度の京都府事業について担当課から説明があった。

(4) 報告事項

- ① 南丹教育委員会連絡協議会研修会の報告について
- ② 市町村教育委員会オンライン協議会（第4回）の報告について
- ③ 亀岡市学校施設長寿命化計画について
- ④ 学校訪問について
- ⑤ 学校規模適正化について
- ⑥ 英検チャレンジ事業の報告について
- ⑦ 次世代と地域文化をつなぐミュージアムプロジェクトに係る青野小学校の取組報告について
- ⑧ 令和3年度3月教職員研修講座のお知らせについて

○各課長等からの報告を受けて、委員から次の質問・意見があった。

<南丹教育委員会連絡協議会研修会の報告について>

末永委員 オンライン研修が通常に行われるようになってきた。南丹広域振興局長の講演であったが、新型コロナウイルス感染症の感染者が増えてきていた時で、全体の状況を把握しながら施策を進めていくことに御苦労いただいていると感じた。後半は、南丹地域にあるスポーツ、観光、健康などの可能性についてお話いただき、できることが多くあると感じた。観光では京都市にかなわないが、京都サンガF.C.がJ1に昇格したこと、サンガスタジアム by KYOCERAが様々な機能を備えていることから可能性を秘めていると感じ、それらを活かした取組をしていくことが大事だと感じた。

<市町村教育委員会オンライン協議会（第4回）の報告について>

江口職務代理者 2つのテーマで協議し、1つめは地域と学校の連携がテーマで進行役を務めた。本市の状況について、地域協働学校本部事業を全小学校で取組んでいることや、コミュニティ・スクールを段階的に導入することなど報告した。同じグループの中他市では取組めていないということで多くの質問を受けた。2つめは、過疎地域の小規模校のあり方で、特認校制

度について報告した。教育行政においては、複式学級を解消することや児童数を増加させることを目的に行うが、利用される方は大規模校になじめないというニーズに違いがあるので、複式学級の解消にいたらないのではないかという見解を述べて意見交換をした。

<学校訪問について>

- 末永委員 畑野小学校では、保護者参観が分散して行われており、学校評議員でもある自治会長が来られており、お話を伺いながら参観した。学校と地域が近いことを感じた。青野小学校でも地域と連携した取組を聴き、育親中学校では落ち着いた学習ができていると感じた。これからの学校を考えていく時に、地域と一体となって進めていくことに力を感じた。
- 福嶋委員 小中連携が実施されていることで、育親中学校の学力向上につながっていると感じた。また、全校一斉下校のため、待ち時間をうまく活用した学習をされており、小学校低学年で基礎的部分をしっかりと学習することで学力につながり良い状況になっていると感じた。
- 江口職務代理者 小中連携については、ベテラン教諭が連携を担当されており、中学校で必要なこと、小学校で身につけておかなければならないことをわかっておられる先生がいることで非常に大きな力になっていると感じた。
- 北村委員 印象深かったことはそれぞれの学校同士のつながりが日常的にあり、将来的に校区が一つになることの資源になると感じた。青野小学校の徒歩通学の距離や、育親中学校の敷地が意外に広いことなど、実際に見ることで感じることもできた。
- 陀安委員 学校の位置関係を知ることができ、通学距離など保護者が心配されていることを実感として理解できた。特に中学校を通り越して小学校に行っている現状は、今後のことを考えていくアイデアになると感じた。一斉下校もやむを得ずしていることであるが、スクールバスになったとしても待ち時間があり、今の状況は活かされると思う。
- 出藏委員 育親中学校の体育祭を以前参観したことがあり、生徒の体格の良さについて、徒歩通学の距離から感じることもできた。学校訪問は悪天候の日が多く今回も雪の

日であったが、学校施設の状況や先生方の御苦勞がよくわかって良かった。中学校の空き教室が多く、今後の活用についても考えていきたいと思う。

<学校規模適正化について>

末永委員 義務教育学校の良さや課題については、亀岡川東学園の先生やPTAの方にお話いただくことも一つの方法かと思う。

江口職務代理者 育親中学校ブロックについては、保護者の意見にあるようにスピード感が必要だが、あまり急ぎ過ぎてもと思う。義務教育学校とは何かなど、しっかり周知し抑えていくことが大事ではないかと思う。

また、地域の方からは先進的なICT教育を取り入れてほしいという声があったとのことだが、西部地域といえば豊かな自然が特色になると思いがちだが、地元のニーズはそうではないかもしれないので、しっかり意見を聴きながら考え、発信していかなければならないと思った。

出藏委員 パワーポイントを使ったわかりやすい資料で、スピード感を持って説明会をしていただいている。義務教育学校では6年生のリーダーシップが養われないという御意見もあったが、社会に出たときに子どもたちにとってどういう力をつけていくかなど、スピード感とともに一つ一つポイントをしっかり抑えながら保護者や地域の方の意見を聴いて進めていければと思う。

<英検チャレンジ事業の報告について>

福嶋委員 英検受検をめざすという子どもたちの意識が出てきたように思う。英語が得意科目となり、高校受験にもプラス要素となり子どもたちに対する影響が大きい。結果も出てきているので継続した取組になってほしい。また、漢字が書けない読めない生徒も多く、教科書を理解するためには漢字も重要だと思っている。漢検についても補助ができれば、理解力の底上げになるのではないかと思う。

学校教育課長 まずは、英検の3級以上の取得率を5割にすることを目指していきたいと考えている。

江口職務代理者 英検は何回かトライしないと授業だけでは合格しにくい。予算に係わることはあるが、1年生から年に1回受検できるように補助を拡充していくことで、5割取得になっていくのではないかと思います。

<次世代と地域文化をつなぐミュージアムプロジェクトに係る青野小学校の取組報告について>

江口職務代理者 ぜひ他の学校にも紹介してほしい。将来にわたって記憶に残る取組であり、こういう事業に出会えた子どもたちは幸せだと思う。

末永委員 自分の目を見て調べて、自分たちの力で形にまとめることで、地域を見直し、愛着につながる。そこに学校だけではなく、文化資料館やみらい教育リサーチセンターが総力をあげてサポートして取組まれていることがたいへん良いと思う。それぞれの地域を見直すような取組で、さらに今後も文化資料館やみらい教育リサーチセンターが係わって取組が広がっていければと思う。

北村委員 完成度がすごいと思う。学校単体ではなく、文化資料館の職員も生き生きして楽しいと思う。学べる場面は学校の中だけでないことも感じた。指導主事が語っておられたが、このプロジェクトのねらい、意味づけが大事で、イベント的に盛り上がるだけではなく、その地域にある想いが大事だとあらためて感じた。

福嶋委員 近くに住んでいたがこの場所のことは知らなかった。机上の学びだけでなく、実際に歴史的な場所に行っているいろいろな物を発見する喜びや、またその後、まとめて劇にするなど、子どもたちにとってたいへん良い経験になり宝物になったと思う。今後、いろいろな学校で取組ができればなお良いと思った。

陀安委員 基本的な最初の学びのインプットがあって、最後に自分たちで作ってアウトプットする。こういうサイクルは自分の身につくプロセスであり、素晴らしい試みだと感じた。

出藏委員 5年生という年頃の中で発表することや、また主体的に動ける場面を作っていく出会わせ方をするというお話が印象的だった。アクティブラーニング、自主的・探求学習が始まったが、「探求しなさい」ではなく出

会わせること、現場で感じたことを形としてつくり発表する、さらに映像として残すということが活気的である。亀岡に素晴らしい資源があり、地域密着型の授業が素晴らしい取組だと感じた。

教 育 長

新学習指導要領の学びがすべて盛り込まれていると感じた。それぞれの学校でも取組まれているはずだが表に出ていない。良い取組であり拡げていければ学校の励みにもなる。こういう機会はまた設けていきたい。

文化資料館長

子どもたちは引続いて、「A t o Z」というアルファベットの頭文字をとって自分たちの地域の特色、魅力あるところを作成しているので、また報告していきたい。この事業を通して、特に子どもたちに問いが大切だとあらためて感じた。資料館の展示会でも、一定の問いを投げかけることによって積極的に観覧できるというヒントももらった。非常に良い経験ができた事業であった。

(5) その他

○オンラインで参加した出藏裕子委員、陀安一郎委員については、亀岡市教育委員会会議規則に基づき出席したものとみなす。

(6) 閉会

○教育長が閉会を宣言

以 上

○教育長職務代理者

○委 員

○委 員

○委 員

○委 員

○委 員

○教 育 長

(調整者 教育総務課長)